一、授与に至る経緯と教育研究評議会での決定

一、授与に至る経緯と教育研究評議会での決定

授与に至る経緯

現在、広島大学では大学の国際化を積極的に推進しており、その一環として海外の卒業生・修了生や同窓会組織との積極的な連携を通じて国際的なネットワークの強化を図っている。近年は東南アジア諸国を中心に海外同窓会組織の設立が続いており、二〇一五年一月現在、八か国・地域に一四海外校友会が設立されている。

このように海外同窓生との連携を深める中で、戦時中に南方特別留学生として本学の前身の広島文理科大学に在学中に被爆され母国に帰国された三名の方が、今でも存命中であることが判明した（二〇一二年二月現在）。

これら三名の方は、広島での被爆の後に終戦を迎え、勉学半ばして広島大学を卒業することなく帰国したが、その後、母国で指導的な役割を果たし、国の発展に貢献するとともに日本との友好関係の強化にもご尽力された。これらの功績により三名とも日本政府から勲章が授与されているが、残念ながら広島大学に在学して勉学をしていたという証がなかった。

このような状況を踏まえて、岡本哲治理事・副学長が中心となり学内で検討を重ねた結果、彼らの功績を讃えて広島大学から名誉博士号を授与することとなった。

教育研究評議会での決定とその反響

二〇一二年二月一八日に開催された第九八回教育研究評議会において、名誉博士の称号授与についての議事が

提出された。広島文理科大学在学中に被爆し、修了がかなわなかった元南方特別留学生三名に対して、その多大な功績にかんがみ名誉博士の称号を授与したい旨の提案理由が説明され、審議の結果、承認された。

二月二十六日に開催された第三六回学長定例記者会見において、浅原利正学長から南方特別留学生への名誉博士号授与の発表を行ったところ、参加したマスコミ関係者から多数の質問が寄せられ、会見終了後も新聞社やテレビ局から本学の担当者に連絡が入った。取材の依頼や名誉博士号授与式の日程や開催場所についての照会であり、今回の名誉博士号授与の決定に対する関心の高さがうかがえた。

また、名誉博士号授与の決定は、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、NHKなどで報道されるとともに、海外でもアジア地域を中心に二三か国・地域で報道された。別表に、ウェブサイト等を中心に調べた報道の状況を掲載する。

広島大学からの報道発表が、日本国内にとどまらず広く海外まで報道されることは異例であり、「平和を希求する精神」を基本理念の一つとする本学の平和に対する取組姿勢を世界に示す象徴的な出来事の一つとなった。

なお、二〇一三年三月一六日にインドネシア・ジャカルタ市内で行われたハッサン・ラハヤ氏の名誉博士号授与式にはNHKジャカルタ支局から取材が入り、その日のNHK全国ニュースで日本国内でも紹介されるとともに、三月二一日にはNHK広島放送局の「お好みワイドひろしま」で約七分間の特集として取り上げられた。番組の見どころを紹介するウェブサイトには「被爆した元留学生に卒業証書」というタイトルで、「広島で被爆した元留学生に六八年の時を経て卒業証書が渡された。男性は原爆投下直後の広島をどう生き抜いたのか。混乱の中、共に過ごした日本人女性の証言を交えてレポートする」と説明されていた。番組では、授与式の様子やハッサン氏へのインタビューが紹介されるとともに、被爆後、留学生達と助け合いながら広島文理科大学の校庭で過ごした栗原明子^{めいこ}氏からの手紙がジャカルタにいるハッサン氏に届けられた。

I 広島大学名誉博士号授与の記録

【海外での報道一覧】	
ARAB TIMES	(2012.12.28) 【クウェート】
Asia One News	(2012.12.27) 【シンガポール】
Bangkok Post	(2012.12.27) 【タイ】
Borneo Bulletin	(2012.12.28) 【ブルネイ、マレーシア】
Daily Sun	(2012.12.28) 【バングラデシュ】
Financial Express	(2012.12.28) 【バングラデシュ】
Kompas	(2012.12.27) 【インドネシア】
Malaysia Flying Herald	(2013. 1. 1) 【マレーシア】
New Straits Times	(2013. 2.24) 【マレーシア】
Radio Netherlands Worldwide	(2012.12.27) 【オランダ】
TENGRI NEWS	(2012.12.27) 【カザフスタン】
Taipei Times	(2012.12.28) 【台湾】
The Advertiser	(2012.12.27) 【オーストラリア】
The Australian (2012.12.27)	(2012.12.29) 【オーストラリア】
The China Post	(2012.12.28) 【台湾】
The Hindu	(2012.12.27) 【インド】
The Peninsula Qatar	(2012.12.28) 【カタール】
The Star Online	(2012.12.28) 【マレーシア】
The Straits Times	(2012.12.27) 【シンガポール】
じゃかるた新聞（現地邦字紙）	(2012.12.28) 【インドネシア】

各国での授与式の実施

教育研究評議会でも名誉博士号の授与が決定されたが、いつ、どこで、どのようにしてご本人に名誉博士記をお渡しするかが決まっていなかったため早急に検討を進めることとなった。

マレーシアのアブドゥル・ラザク氏への授与式については、ご長男のズルキフリ氏（前マレーシア科学大学副学長）と相談の上、二月二五日にクアラルンプール市内のホテルにて授与式を実施することとなった。当初は、広島大学マレーシア校友会の設立会合に併せて授与式を実施する予定であったが、まだこの時点では校友会発足の目途が立っていなかったため授与式のみを行うこととなった。授与式にはラザク氏の親族や友人が参加されるとともに、本学の同窓生にも参加してもらった。授与式に参加した同窓生が中心となり、一年後の二〇

一四年三月には広島大学マレーシア校友会が発足することとなる。なお、授与式の司会は本学同窓生のゾライダ・ムスタファ氏（マラヤ大学上級講師）と平野裕次氏（広島大学教育・国際室）が務めた。

インドネシアのハッサン・ラハヤ氏への授与式については、当初、在インドネシア元日本大使館に会場の提供をお願いしたところ諸事情により実施が困難との回答があり、インドネシア元日本留学生協会（PERSEADA）と相談することを勧められた。同協会のジャン・ロノ事務局長と相談の上、三月一六日にジャカルタ市内のダルマプルサダ大学講堂にて実施することとなった。授与式にはハッサン氏の親族や友人、インドネシア元日本留学生協会、ダルマプルサダ大学関係者など多数の参加があった。本学のジャカルタ、バンドン、スラバヤ、マカッサルの各校友会長も参加した。

ブルネイのペンギラン・ユソフ氏への授与式については、在ブルネイ日本大使館とも相談の上、同大使館で開催させていただけることとなった。当初、三月一二日に実施を予定していたが、ユソフ氏が急遽、立法評議会出席のために二―三週間拘束されることとなったため再調整を行い四月二二日に実施することとなった。授与式にはユソフ氏の親族や友人、ブルネイ大学、ブルネイ日本友好協会、ブルネイ元日本留学生会（BAJA）関係者などが参加した。なお、授与式の司会は出口博則氏（広島大学特任教授）が務めた。